

平成27年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策)
1 国際社会を生きる人材の育成を主眼として、個々の生徒に応じた進路実現を目指し、全国の国立大学にチャレンジしていく生徒を増やす。	① 生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。	授業において、一方的な講義形式による知識注入でなく、生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を図る活動を行っている。 (ア) 毎時間行っている (イ) ほぼ行っている(7割以上) (ウ) + (イ)の合計がA 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Ⓐ 年間：92% 前期：91% 後期：93%	(成果と課題) ICT機器を積極的に活用している教員の割合は88%に達しており、アクティブ・ラーニング(AL)の手法を取り入れた授業も多く見られるようになった。今後はALの手法と知識注入型の手法を授業のどの場面で組み込むかが課題となる。 (次年度の扱い) ICT機器の活用で板書や説明の時間を圧縮し、ALの手法を導入しながら、生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を図る。
	② 授業や総合的な学習の時間等の活動を通して、生徒が自ら課題解決に取り組む姿勢を育む。	自らの学習について (ア) 授業や学校で与えられる課題以外に、独自の学習に取り組んでいる。 (イ) 授業や学校で与えられる課題に積極的に取り組んでいる。 (ウ) 授業や課題には取り組んでいるが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (エ) どちらかというとその場しのぎの学習ばかりで、極端に悪い成績を取らない程度の学習状況である。 (オ) + (イ)の合計がA 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	Ⓑ 年間：43% 前期：38% 後期：48%	(成果と課題) 昨年度の反省を踏まえ、各教科からの課題を学年主任が調整する体制を整え、家庭での学習習慣の確立に繋げている。また、ALの手法を授業に取り入れることで、自主的、協同的な学習を進めていくことが求められている。 (次年度の扱い) 個々の生徒の学力レベルや、どの時期にどの教科の力をつけるべきかを学年で調整しながら、各教科が連携して学習指導に取り組む。
	③ 国際共通語である英語でコミュニケーション能力を身に付けようとする態度と能力を育成する。	2年次12月に受検するGTECの本校の平均スコアが、前年1年次12月に受検した同平均スコアに比べ、何点の伸びがあったか。 A 50点以上 B 45点以上 C 40点以上 D 40点未満	Ⓓ +32点	(成果と課題) 英語で指示や説明を行う授業により、リスニングの分野において伸張が見られたが、リーディングやライティングの力が伸び悩んでいる。 (次年度の扱い) 大量の英文を短時間で処理する英語の速読力を向上させるとともにまとまりのある英文を書く技術の指導も充実させていく。
	④ 高い志を持って進路達成に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	ア 難関大学合格者数 10名以上 イ 在籍生徒数に対する国立大学現役合格率 55%以上 合格者数・率が A ア=10名以上 イ=55%以上 B ア=7名以上 イ=45%以上 C ア=5名以上 イ=40%以上 D ア=5名未満 イ=40%未満	難関大合格11名 Ⓐ 現役合格率45.6% Ⓑ	(成果と課題) 東大合格者はなかったが、昨年に続き現役生が京大に合格した。難関大志望者を中心に個別の添削指導を早期から実施した結果、8年ぶりに難関大合格者を2桁に乗せることができた。 (次年度の扱い) 安定した二次力が必要な難関大志望者に対して、個別の添削指導を継続していくとともに、新課程で理科の負担が増大した理系の中位下位層への手厚い指導も展開していく。
	⑤ 「進学校における部活動」を追求し、顧問を第2の担任と位置づけ、部活動指導の一貫として学習指導にも積極的に関わる。	第2の担任という立場で、部活動指導の一貫として生徒自らが学習に向かう姿勢と環境を整えているか。 (ア) 十分整えている (イ) ほぼ整えている (ウ) あまり整えていない (エ) 整えていない (オ) + (イ)の合計が 90%以上 A 80%以上 B 75%以上 C 75%未満 D	Ⓐ 年間：93% 前期：91% 後期：94%	(成果と課題) 定期試験前や長期休業中の学習会を部活動単位で実施したり、顧問が休業中の課題の提出状況を確認するなど、顧問が積極的に生徒の学習を支援する体制が整ってきている。 (次年度の扱い) 部活動の時間が長すぎるという保護者の意見もあることから、より効率的な部活動を運営し、生徒の家庭学習時間増加を図る。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育を充実させ、将来の夢や希望を明確にさせることが、主体的に学ぶ態度につながり学習習慣が醸成される。 主体性や自立心の育成には、育つまで待つという「大人の余裕」が必要であるが、実態は多忙な大人が先に結論や答えを言ってしまう。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> 現役合格にこだわるあまり、安易に志望を下げてしまうことのないように、日々の教科指導の中で、生徒の意欲を喚起し、高い志を維持していく。 指導者研修への参加や入試問題研究の充実等、個々の教員の力量を高めるとともに、チーム桜丘として、本年度策定した学力スタンダードに基づき、各教科において、いつの段階でどのような力をつけさせるのかを明確にした上で、主体的、協働的な学習を取り入れ、自主的な学びの環境づくりを進めていく。 			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策）
2 校訓「質実剛健」を不易のものとして、生徒の規範意識と自主自律心の向上を図り、高い意志を持ってたくましく生きる生徒を育てる。	① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんとした頭髪・服装をしている ・積極的に挨拶をしている この2つの点について (ア) よくあてはまる (イ) ほぼあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない (ア)+(イ)の合計が 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満 D	(A) 全体 : 91% 教員 : 91% 生徒 : 92% 保護者 : 90%	(成果と課題) 本校生の服装・挨拶等がきちんとしていることについては高い評価が与えられているが、まだまだ十分とは言えない生徒も一部見受けられる。 (次年度の扱い) 服装や挨拶等の指導に関して、職員の中で多少の温度差があるという意見もあり、職員一丸となり、より積極的な指導を進めていく。
	② 交通安全教室、自転車マナー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール指導を行う。	自転車に乗車するときは交通ルールを (ア) いつも守っている (イ) だいたい守っている (ウ) あまり守っていない (エ) ほとんど守っていない (ア)+(イ)の合計が 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満 D	(C) 全体 : 78% 教員 : 69% 生徒 : 86%	(成果と課題) 昨年度より、東金沢駅から本校までの通学路に全教員が交代で立ち、登校指導を実施しており、昨年度は一定の成果がみられたものの、本年度は自転車による事故の件数が増加した。 (次年度の扱い) 登校中の事故が目立ったことから、毎朝、余裕を持って登校するよう生活全般にわたる指導を展開していく。
	③ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。	前年度に対し、図書館行事への興味関心、および読書意欲が向上した生徒の割合が A 両方とも10%以上増加 B 両方増加し、一方が10%以上増加 C 一方が増加し、一方が減少 D 両方とも減少	(D) (ア) 興味関心 (イ) 読書意欲 (ア) △10% (イ) △6%	(成果と課題) 4月に新校舎が完成したが、書架が9月まで未整備であったことから、開館が10月まで延びてしまった。また、1年生に対する図書館利用オリエンテーションも実施に至らず、生徒は新しい図書館を身近に感じられなかったと思われる。 (次年度の扱い) 新しくなった図書館で活動をより充実させ、生徒の読書意欲の向上に努める。
	④ 生徒面談シートを活用し、PDCAサイクルを意識させた面談を行い、生徒が主体的に目標の達成に取り組む自律の態度を育成する。	① 1、2年生の家庭学習時間が学年の目標値（学年+1）に達している生徒の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 ② 家庭でのスマホ使用制限を (ア) いつも守っている (イ) だいたい守っている (ウ) あまり守っていない (エ) ほとんど守っていない (ア)+(イ)の合計が 60%以上 A 50%以上 B 40%以上 C 40%未満 D	(C) 45% (C) 44%	(成果と課題) 1年生については、家庭学習の時間を確保することが授業の理解には不可欠であることを生徒に伝えてきたが、学習時間は伸び悩んだ。スマートフォン等の使用が多いという保護者の声もあった。 2年生については、家庭学習時間が安定していない生徒が少なくない。学習課題を与える取組から、自主的な取組にどのようにつなげていくかが今後の鍵である。 (次年度の扱い) 1年生については、保護者の協力を得ながら、スマホ使用についての取組を継続していく。 2年生については、家庭学習時間の確保に加えて、自らの将来について、幅広く考える機会を与える取組の充実が必要である。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの利用が学習時間の減少に影響しているのではないかと。適切な使い方になっていくように対策を講じていくことが急がれる。 ・事故発生件数が増加しており、自転車運転マナーの向上や事故の防止について、より一層の努力と工夫が必要である。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン等の情報端末の功罪を十分に伝えることで、使用時間や利用の中身に関する生徒の自己管理能力を高めていく。 ・自転車運転マナーの向上や事故防止のために、下校時の校外指導の導入や、自転車保険の加入を自転車通学の許可条件にすることも検討していく。 		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策）
3 教育目標達成のため、教職員自らが資質向上に励むとともに、学校の教育活動に参加する保護者の増加を図り、信頼される学校づくりに努める。	① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校経営がなされている。	いしかわニュースーパーハイスクールとして教職員の共通理解のもと、学校運営がなされていると感じる教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	Ⓐ 年間：92% 前期：91% 後期：93%	（成果と課題）会議の効率化や分掌業務の見直しに努めた結果、取組が速やかに実行されるようになり、各教員の生徒と向き合う時間が充実してきた。 （次年度の扱い）NSH推進課・進路指導課・教務課・各学年がさらに連携を密にし、生徒の進路実現に資する取組を展開していく。
	② 校内研修会をより充実させ、今日的教育課題の理解とそれに対応しうる教員の資質を高める。	取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができたと感じる教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	Ⓐ 年間：93% 前期：93% 後期：93%	（成果と課題）10月に産業能率大学の小林先生を講師に迎え、アクティブ・ラーニングの研修を実施した。本研修以降、ALの手法を実践する教員が飛躍的に増加した。 （次年度の扱い）引き続き研修会の機会を確保していきたい。
	③ 保護者が本校の教育活動に参加する機会を増やすことにより、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭と学校との連携を更に深める。	今年度、保護者が本校の学校関係の行事に参加した回数が (ア) 5回以上 (イ) 2～4回 (ウ) 1回 (エ) 0回 (ア)+(イ)の合計が A 50%以上 B 35%以上 C 25%以上 D 25%未満	Ⓐ 年間：70%	（成果と課題）3S歩行では、保護者の参加協力者が500名以上にのぼり、多くの保護者に参加頂ける流れが確立した。 （次年度の扱い）引き続き、3S歩行を中心に、保護者の教育活動への積極的な参加を呼びかけていく。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・新校舎施設の活用については、生徒の主体的な学びや探究的活動のためのメディアセンターやラーニングスペースが有効に機能し始めている。 ・来校した際の生徒のあいさつが清々しい。あいさつをしっかりとできる生徒を育てていくことが、コミュニケーション能力育成の基本である。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ラーニングスペースの開放や学年情報ホールの各種掲示物に工夫を加えることで、生徒の主体的な学びを促す環境づくりに努めていく。 ・あいさつがしっかりとできる素直な生徒達が、落ち着いた雰囲気での学習に取り組んでいることが本校の強みと言える。学校公開や中学校PTA訪問の受け入れ等の機会を活かして、積極的に学校の営みを発信していく。 			